

日点委通信

No.13

1997年11月1日発行

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1997年5月10日・11日の両日、京都市西京区の洛西ふれあいの里保養研修センター「ふれあい会館」において第33回総会を開催し、次の事項を協議した。

1 複合語の切れ続き等について

金子委員から「『意味』と『拍』——複合語の切れ続きをめぐる」、渡辺昭一事務局員から「複合名詞に含まれる動詞から転成した語の切れ続きについての検討案」（近畿点字研究会）、宮村健二委員から「理療関係用語の表記について」（筑波技術短期大学点訳後援会）、藤野克己委員から「接頭語を含む語の切れ続きについて」（東海点字研究会）等の報告や発表があり、『日本点字表記法 1990年版』の第3章第2節の「自立語内部の切れ続き」の規則を踏まえて協議した。なお、これらとは別個に関戸直明氏から「現行日本語点字記号の多義性について」（石田透・関戸直明）の発表があった。

2 『試験問題の点字表記』の編集と内容の修正について

『試験問題の点字表記』（案）の編集とその内容について、近畿点字研究会から「試験問題の点字表記について」の修正提案があり、関東地域委員会で検討してきた「『試験問題の点字表記』修正内容」と併せて協議した。編集については、『日本の点字』第21号の構想にそって行うこととし、内容の修正については関東と近畿の関係者の間で調整することとした。

3 委員等の交替について

盲教育界代表委員の中村幹夫氏が辞任、盲人社会福祉界代表委員の細川啓子氏は、水谷吉文氏と交替した。また、点字科学記号専門委員会の宮村健二委員長は、一身上の都合により委員長を辞任した。後任の委員長には、阿佐博会長の提案により木塚泰

弘副会長が就任した。

点字科学記号の検討状況について

日本点字委員会科学記号専門委員会

日本点字委員会では、1981年に『点字数学記号解説』、1983年に『点字理科記号解説』を発行し、教科書や学習参考書の点字出版および大学入試などの各種の試験に対応してきました。また、1981年に「コンピュータ用言語の6点式点字表記」を決定し、85年と95年に一部改訂して、プログラマーの業務や情報処理技術者試験などに対応してきました。

しかしながら、これらの点字表記に対していくつかの問題点が指摘されるようになりました。特に、情報処理関係のマニュアルなどの作成にあたって、数式とプログラム言語との使い分けに多くの問題が指摘されています。また、点字と墨字との相互変換も現実の課題として取り組まれるようになりました。

このような情勢を受けて、日本点字委員会では、1991年に相互変換用点字専門委員会を廃止し、新たに点字科学記号専門委員会を発足させました。日本点字委員会から点字科学記号専門委員会に付託された事項は、点字数学記号・点字理科記号・情報処理用点字記号の統一を図ることと、点字と墨字の相互変換に耐える記号体系を踏まえた点字科学記号の原案を作成することでした。

点字科学記号専門委員会では、これらに関連する現行点字表記の問題点を洗いあげるとともに、ネメスコードやテフの体系の検討、U B Cに関する情報の収集などを行いながら、点字科学記号の原案を検討してきました。現在、2種類の検討案が提案されていますが、それぞれ考え方も異なり、個々の記号も異なっています。

そこで、点字科学記号専門委員会で一つの原案としてまとめる前に、その情報を公開し、多くの方々からのご意見やご要望をうかがうことを企画し、「説明資料」を作成しました。

この「説明資料」を用いた、「点字科学記号検討案説明会」を2度開催しました。第1回目は、7月12日土曜日の午後、筑波大学附属盲学校で行いましたが、関東地区を中心に約60名の参加がありました。第2回目は、7月31日木曜日の午後、全日本盲学校教育研究会の会場である奈良県文化会館で行いましたが、全日盲研出席者と関西地区を中心に約60名の参加がありました。

これらの説明会に参加された方と、日点委事務局で「説明資料」を入手された方々50名の参加を得て、9月6日土曜日の午後、東京の戸山サンライズで「点字科学記号検討案に対するご意見・ご要望を聴く会」を行い、貴重なご意見やご要望をいただきました。また、封書やE-mail、あるいはフロッピーディスクで多くのご質問やご意見などをいただきました。その後、ご質問には提案者から回答申し上げるとともに、ご意見やご要望を集約し、点字科学記号専門委員会の討議に反映させていただきます。

今後、2種類の検討案を評価し、一つの記号体系にまとめ上げるうえで問題点とされている点には次のようなものがあります。

- (1) 数学、物理、化学、情報処理などに用いる点字記号体系の統一を行う場合、共通部分と独自の分野との関係をどう考えるか。
- (2) 点字と墨字との相互関係をどの範囲まで考えるか。
- (3) 記号の意味を読み手が判断する場合をどの程度まで認めるのか、あるいは意味解釈の必要のない触読や点訳を考えるのか。
- (4) 触読しやすい記号体系は、記号のマス数の少なさか、記号のまとまりか。
- (5) 外国の体系との関係をどう考えるか。
- (6) 現行の記号体系になじんでいる人々への意向をどう考えるか。

これらの課題を踏まえて半年程度で一つの下案をまとめ上げるために、精力的に取り組むことが求められています。

日本点字委員会では、上の記事にあります『点字科学記号検討案説明資料』を頒布しています。価格は、墨字版・点字版ともに600円（送料を含む）です。購入ご希望の方は、墨字版・点字版の別を明記のうえ、下記までお申し込みください。代金は切手（300円以下）でも結構です。

〒176 東京都練馬区桜台6-33-27 日本点字図書館仮事務所内

日本点字委員会事務局

☎ 03-3993-9841 FAX 03-3993-9861

頒 布 図 書 案 内

----- 注文先・日本点字図書館用具事業部（消費税がかかります） -----

1. 『日本点字表記法 1990年版』（墨字版） 1000円（送料310円）
2. 『点字数学記号解説』（墨字版） 600円（送料210円）
3. 『点字理科記号解説』（墨字版） 600円（送料210円）
4. 『日本の点字100年の歩み』（墨字版） 500円（送料210円）

-----（郵便振替 00150-8-44522）-----

----- 注文先・日本点字図書館出版事業部（消費税はかかりません） -----

1. 『日本点字表記法 1990年版』（点字版） 5100円（送料無料）

-----（郵便振替 00190-9-750672）-----

----- 注文先・日本点字委員会事務局 -----

- | | （点 字 版） | （墨 字 版） |
|---|-------------|--------------|
| 1. 『点字数学記号解説』 | 1200円（送料無料） | |
| 『点字数学記号解説別冊』 | 3800円（送料無料） | |
| 2. 『点字理科記号解説』 | 1200円（送料無料） | |
| 3. 『日本の点字100年の歩み』 | 700円（送料無料） | |
| 4. 『統一英語点字コードプロジェクト文書コード(英語点字)の拡張・中間報告』 | 1500円（送料無料） | 500円（送料210円） |
| 5. 『統一英語点字コード研究プロジェクト文書コードの拡張・最終報告』 | 3000円（送料無料） | 750円（送料240円） |
| 6. 『日本の点字 第9号』 | 300円（送料無料） | 300円（送料190円） |
| 7. 『日本の点字 第11号』 | 400円（送料無料） | 400円（送料210円） |
| 8. 『日本の点字 第12号』 | 400円（送料無料） | 400円（送料210円） |
| 9. 『日本の点字 第13号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料210円） |
| 10. 『日本の点字 第14号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料210円） |
| 11. 『日本の点字 第16号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料190円） |
| 12. 『日本の点字 第17号』 | 600円（送料無料） | 600円（送料210円） |
| 13. 『日本の点字 第18号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料210円） |
| 14. 『日本の点字 第19号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料190円） |
| 15. 『日本の点字 第20号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料210円） |
| 16. 『日本の点字 第21号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料210円） |
| （情報処理用点字表記に関する報告 試験問題の点字表記 他） | | |
| 17. 『日本の点字 第22号』 | 600円（送料無料） | 600円（送料210円） |
| （座談会「今、点字表記の課題はこれだ／」他） | | |

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

〒176 東京都練馬区桜台 6 丁目33番27号 電話 東京03 (3993) 9841

日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 （郵便振替 00100-1-42820）